

アンコール遺跡の保存 「水環境が重要」

金沢大でシンポ 管理公団の副総裁

カンボジアの世界遺産・アンコール遺跡の保存の現状や課題を考えるシンポジウムが27日、金沢市角間町の金沢大角間キャンパスであった。同国で遺跡を管理する「アフサラ公団」のハン・プー副総裁は、同遺跡が堀や湖などに隣接していることから、保存のためには河川や地下水などは水を巡る自然環境の管理が重要と説明した。

ハン副総裁は、スライドで地図を示し、河川や地下水など、水に



アンコール遺跡のスライドとともに、アフサラ公団のハン・プー副総裁（右奥）の報告を聞く学生ら—金沢市角間町の金沢大で

囲まれた遺跡の特徴を説明。09年の大洪水による氾濫状況のデータも示し、将来にわたる遺跡の保存には、こうした水環境の管理が必要と指摘した。また、河川に流れ込む雨を調節する機能を持つ森林の再生のため、公団と地元住民が行っている活動について報告した。

同公団は、同大の塚脇真二教授（海洋地質学）との研究協力の縁を通じ、同大生とのインターンシップ（職場体験）を受け入れている。昨年も、参加学生らが同国で、大気や水質の調査、湿原管理、遊歩道の整備などの業務を体験した。

【横田美晴】